

第27回男子ハンドボール世界選手権2021エジプト

試合結果報告

試合日 2021年1月21日

メインラウンド

J P N		ARG
13	前半	17
11	後半	11
24	合計	28

戦況

別紙

No.	ポジション	氏 名	得点
10	LW	杉 岡 尚 樹	
12	GK	岩 下 祐 太	
13	PV	笠 原 謙 哉	
14	CB	北 詰 明 未	
15	LB	部井久アダム勇樹	
18	LB	成 田 幸 平	
19	RB	徳 田 新 之 介	
20	RB	渡 部 仁	1
21	LW	土 井レミイ杏利	2
22	GK	坂 井 幹	
25	RW	元 木 博 紀	5
27	PV	玉 川 裕 康	
31	LB	吉 野 樹	6
33	CB	東 江 雄 斗	3
36	RW	出 村 直 嗣	
38	CB	水 町 孝 太 郎	1
39	GK	中 村 匠	
40	PV	高 野 颯 太	
41	RB	徳 田 廉 之 介	2
43	PV	吉 田 守 一	4
合 計			24

戦況

世界選手権、メインラウンド1戦目。1997年の世界選手権(熊本大会)以来、実に24年ぶり2度目のメインラウンドに臨む日本代表。予選リーグの舞台であったアレキサンドリアから昨日カイロに移動。初戦の相手は中南米選手権2020チャンピオンであり、東京オリンピック出場権も獲得している強豪アルゼンチン。Simonet3兄弟を中心に、多くの選手がスペインリーグを中心に欧州リーグに所属し、中でも2017年「EHFチャンピオンズリーグ」のMVP、Diego Simonet(Montpellier所属)がキープレイヤー。スペイン代表監督の経験もあるベテランのManolo Cadenas(現在Ademar Leon監督も兼任)が率いる。

日本の攻撃は、プレーメーカーに東江、渡部と吉野がバックコート、元木と土井がサイド、ポストに笠原の布陣。守備は、GKに岩下、成田と笠原をセンター、2枚目に渡部と東江、1枚目に元木と土井を配置した「6-0 DF」でゲームスタート。この日のベンチアウトは杉岡、坂井、出村、部井久。

立ち上がり、日本は積極的にシュートを狙うも、なかなか得点を奪えない苦しい時間帯が続く。前半3分に吉野がフェイントからシュートを決めて初得点。対するアルゼンチンもDiego Simonetを中心に攻撃を組み立て、得点を重ねていく。前半7分過ぎに退場者を出すなど苦しい時間帯は続き、前半10分、2-6となったところでタイムアウトを請求、攻撃の立て直しを図る。直後にコンビネーションから吉野のミドルが決まり、流れを呼び込む。その後も吉野がカットイン、岩下の好セーブからの速攻を決めて3連続得点。そのまま勢いに乗りたところだったが、テクニカルミスで得点が伸び悩む。その間にアルゼンチンはSimonet兄弟を軸に得点を重ねていく。水町のカットインで得た7mスローのチャンスも、得点に結び付けず、また、数的優位の機会も、ポストへのパスがインターセプトされるなど、なかなかリズムを作れない。日本はGKを岩下から中村に代えてリズムを変えようと試みる。その中村の好セーブから三次速攻を仕掛け、東江が決めるなどして前半27分には12-14と2点差まで詰め寄る。しかし、その後もミスから失点を喫し、13-17の4点ビハインドで前半を終了する。

ハーフタイムでは、主に攻撃について、試合前のミーティングやトレーニングでシミュレーションしてきた内容を再度確認。テクニカルミスを少なくし、得点力を伸ばして相手の速攻を止める意識を高めた。

後半、日本のセンターDFが消極的になったところをベテランのFederico Pizarrolにミドルを決められ、先制を許してしまう。直後に日本は、この大会初出場となる北詰を投入し、新しいリズムを作る。中村の好セーブから、北詰-吉田、さらには東江-吉田のポストプレーで得点。吉田はそのままセンターDFに入り、攻守の中心となる。その後もSimonet兄弟を中心としたアルゼンチンの攻撃に苦戦するも、日本は中村の好セーブや土井の連続サイド、元木の7mスロー、吉田のポストなどで意地を見せる。しかし、前半の点差を縮めるには至らず、24-28の4点差で試合終了。

東京オリンピックでも対戦する可能性のある、中南米チャンピオンのアルゼンチンに対して、失点を30点以下に抑えたものの、要所でのミスが重なり敗戦となった。明後日・23日には前回の世界選手権チャンピオンであり、リオデジャネイロオリンピック金メダルのデンマークとの一戦を控える。次戦までの時間、リカバリー、リフレッシュ、リラックスの時間に多くを割いて、万全のコンディションでデンマーク戦に臨みたい。